



進学先

岡山大学 薬学部

藤原 悠以さん

向陽高校 環境科学科
英語部



進学先

筑波大学 医学群看護学類

畠中 梨紗さん

向陽高校 環境科学科



進学先

金沢大学 医薬保健学域看護学専攻

奥谷 菜津子さん

向陽高校 環境科学科
硬式テニス部

入試日に大学に行った感想は？

藤原： 当日は落ちついて行きました。でも、雨だったので、持っていた教科書とかがだいぶ濡れちゃって。雨対策をしておけばよかったなと思いました(笑)。キャンパスはめっちゃ広くて。最寄り駅からは薬学部のキャンパスが一番遠くて、歩いて20分か30分くらい。雨だったから余計に時間がかかりました。

畠中： 筑波大も大きかった。迷子になるかもって不安だったんですけど、ホテルが受験生専用のプランで、学部ごとにバスを出してくれて、バスを降りてからも試験会場の前まで一緒に行ってくれたので。それがなかったら迷っていたと思います。キャンパス内にバス停があるくらい大きいので。

奥谷： 金沢大の試験会場は、看護と保健学類だけが入っているキャンパスだったので迷うことはなかったです。でも、3月末のオリエンテーションとかは、駅からのバスの路線も全く違うもう一つのキャンパスで、そっちのキャンパスは行ったことないので、行けるかは不安(笑)。

医療系をめざしたきっかけや、時期を教えてください。

奥谷： たぶん小4くらい。最初は、歯科医になりました。たかたんです。いつも通ってた歯科が「いいなあ」みたいな感じで、「人を助けたい」「こういうことがしたい」みたいな明確なものがあつたわけではなくて、「かっこいいー」みたいな。そこからずっと歯科医って言っていたんですけど、中1くらいで薬剤師になろうかなって変わりました。それも軽い感じなんですけど。で、最終看護系になりました。

畠中： 私も小学校くらいから医療系で考えていました。小1くらいのときから、おじいちゃんが医療系の教育番組を見せてくれて。見たらお小遣いをくれたんです(笑)。「人体」の内容で、脳・アルツハイマー・腎臓・肝臓とかの研究を教えてくれる番組で、それを見て面白くなって思って医療系に興味を持ちました。他にも「日本の歴史」みたいないろんなジャンルの番組を見せてくれたんですけど、その中で面白くなって思ったのが医療系で。妹も一緒に見てたけど、医療系は興味無かったみたいでお小遣いだけもらってました(笑)。

藤原： 私はお姉ちゃんが薬学部に入ったのがきっかけ。中2か中3のときに。それで自分でも調べてみて、面白そうだなって。他の医療系、医師とか看護師とか実際に患者さんに関わるのもいいなって思ったんですけど。でも薬って、一個作ったらあとの世代にも残していけるっていう

か。その一個でたくさんの人を救えるっていうのがすごいかっこいいなって思って。だからそういう研究をしたいなって思いました。

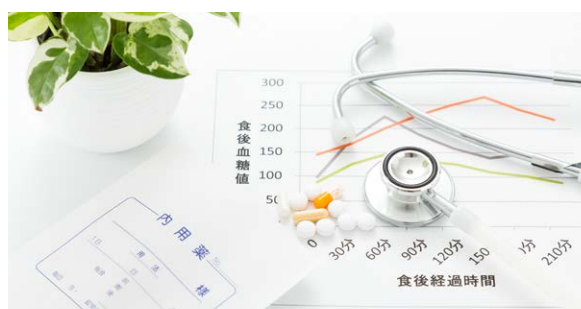
畠中： すごい！めっちゃ考えてる。

奥谷： なんかかっこいいなーみたいな感じだけの私、軽すぎた(笑)。

Academy Campusのことについて教えてください。

畠中： ヨッシー(吉田先生)の授業(ACクラスライブ授業：高1ハイレベル英語、高2ハイレベル英語、共通テスト攻略英語、難関大二次対策英語)は、教え方がすごく分かりやすいし納得しながら授業を受けられました。文法とかも身についたと思います。長文読解とかにも役立ったし、すごく助かりました。

奥谷： 高1になってヨッシーの授業を最初に受けたときは、ちょっとびっくりしたよね。時計が金色だし。「すごい先生が教室入ってきたー！」って(笑)。でもハイレベル英語を高1から受けていたから、高1の間に基礎が身につきました。高2から始まった文解釈も、その高1で身についた基礎があったからできたかなと思います。高3になって二次の対策が始まったら、周りにはつまづく子もいた中で、やっぱりそこでも高1からの基礎が大きかった。



藤原： 他は、長沼先生の国語〈ACクラスライブ授業：高2受験国語、共通テスト攻略国語〉。授業の効果を感じました。実際、共通テストの国語の結果が良かったので。授業は、声が残るというか、記憶に残りやすい。

畠中： 私は、国語の"何を言いたいのか"みたいなのが全然わからなかったんです。それで、初めは国語の点数は半分も取れないような状態だったんですけど、長沼先生のやり方、システムみたいなのを教えてもらったら、内容を理解できていなくても問題が解けたんです。国語の力も伸びたし、やり方を教えてもらったことで安定して取れるようになりました。

奥谷： 私も国語が苦手です。参考書や問題集とかに解説は書いているけど、それを読んでも「それはそうなんだけど…」って感じで、自分が求めているのはこれじゃないというか。でも、長沼先生は、筆者の言いたいことだったら「ここを見る」「絶対ここ」みたいな感じで。あ、そういうことだったんだ！って、自分が欲しかったものを得られました。

藤原： あと、高2の最初から受け始めた数学のサテライン〈〈代ゼミサテライン講座〉小林清隆講師〈数学ⅡBⅢC Class-A〉〉は、面白かったです。

奥谷： 私も同じくらいに受け始めました。けっこう早めに受け始めたので、1学期2学期は学校の進度よりも先に進む感じで。それが苦では無かったし、授業はすごくよかったけど、もっと予習復習をしたらもっと伸びていたかなとは思う。

畠中： 私も、高2の途中から同じサテラインを受けていました。あと、化学〈亀田和久講師〈ハイレベル化学①②〉〉は、高2の最初から。岡先生から言われた1年間くらいで終わらせるプランで。まとめノートをちゃんと作るようにして、学校の授業の前に見返してました。サテラインの他に亀田先生の本も買って、ややこしいなって思うところはそっちでも確認をしていました。

藤原： 私も高2の最初から。学校で習う前に勉強することになるから、予習をきちんとしないって思ってた。

奥谷： 私は、化学は高2の終わりごろから。6か月プランで進めて10月初めくらいまで。けっこう大変でした。内容も板書も1回で学習する量が多くて。まとめノートもすごい時間かかりました。まあ頑張りましたけど(笑)。あと、物理〈漆原晃講師〈漆原晃のわかりやすく点が伸びる物理〉〉も化学と同じくらいに受け始めました。

藤原： 他にサテラインで受けてよかったと思ったのは、二次試験の前の大学別対策。岡大理系予想問題。その時期は、ちょうどいい問題集がなかったので、サテラインで受けておいてよかったと思います。

畠中： 私も、サテラインは、他にも生物とか筑波大の予想問題とかいろいろ受けさせてもらいました。貫先生の数学〈〈代ゼミサテライン講座〉貫浩和講師〈数学的思考の鍛錬 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C編〉〉も受けてよかったです。その問題だけの解き方ではなくて、似たような問題でもこの解き方で通用するんだよっていうのを教えてくれたので。1回で解けるようになる問題のレパートリーが多くて、応用が効くところがよかった。

奥谷： 貫先生の数学はよかったよね。授業で解いて、あとから別の問題集で同じような単元を解いたら「あ、これ言っていたやつ！解ける！」って嬉しくなった記憶がある。あと、政経は、勉強をし始めるのがみんなより遅かったので、蔭山先生の政治経済〈代ゼミサテライン講座〉を受けて知識をつけられたのがよかった。



畠中： 自分でブースでサテラインを受けていたら、受けた後の復習の時間はあんまりとらないけど、特別講座(AC特別講座：1Day特講)〈年末年始特訓〉など。代ゼミサテライン講座90分4講を、復習・定着時間も含め1日で受講する。)だったら必ず復習の時間があつたので、きちんと知識を吸収できたのは良かったです。政経、情報、数学をその特別講座で受けました。

奥谷： 私は政経。受ける前は「一日かあ…そっか…」ってちょっと憂鬱な感じだったんですけど(笑)。でも終わってみたら、まあもちろん疲れはするけど、しっかり勉強できたって実感したからよかったと思います。あれがなかったら政経はどうなっていたか分からない。

藤原： 確かに、社会とか詰め込み系は、一日でやったらけっこう力がついたと思います。



Academy Campusでの三年間、どのように感じましたか。

畠中： アカデミーでは、早めの段階で受験勉強を始める子が多かったから、自習室に行ったら周りを見てがんばろうって思えた。高1のときから自習室を使わせてもらっていたけど、どの学年もみんながんばっていて。特に上の学年の人たちがすごい集中して勉強をしていたのを見ていたら、自分もこういう風になろうと思ってがんばれたので、すごい良かったです。先輩がどうやっているのかをチラッと見たりして。

奥谷： 高2の最後のほうとか、すごかったよな。高3の先輩が。先輩が自習しているのと同じ教室でサテラインを受けていたら、なんていうか…空気が。先輩の緊張感みたいなのが伝わってきて。サテラインを受けに行くたびに、自分もしっかりやらないって思えた。自習で使うときは、先輩たちがすごく集中している中で、自分は単語帳しか見ていないから、いいのかな？って思ったこともあったんですけど(笑)。でも、単語帳をしっかりとしました(笑)。

藤原： 私は、アカデミーのアットホームな感じがすごくよかったと思いました。高3の頃は、もう家と塾との往復ばかりの時期で。だから、しんどくなるかなと思っていたんですけど、岡先生とかヨッシーとかが、けっこういつも通りに話しかけてくれるっていうか。いい意味でピリピリしていなくて。受験期も落ちついていられたのが良かった。

奥谷： あと、質問対応。たまに、「授業は優しいのに質問に行くときちょっと怖い先生」とかいるじゃないですか(笑)。そういうのは苦手なんですけど。でもアカデミーの先生は、違って。ヨッシーには授業のこととか聞いたり、岡先生や渋谷先生もどんなことを話しかけてもなんか優しい感じで嬉しかったなって思います。

(-- GES〈中学生部:向陽中学完全専門クラス〉について --)

奥谷： 中学のときのGESの英語の先生もすごくよかった。私は、英会話とかも行ったことなく中学で初めての英語だったんですけど、先生の授業で真面目に取り組んだら革命が起きた(笑)。文法をしっかり教えてくれて。中学の基礎固めによかったです。

畠中： 先生がすごく明るくて、みんなとの距離も近かったよな。楽しかったので、英語が嫌いにならなくて済みました。



受験勉強を振り返って。

奥谷： しんどかったです。模試の点数が全く上がらなくて泣いたときもありました。特に理科。でもみんながんばっているし、アカデミーの友だちも励ましてくれて。みんなで励ましあえたのがよかったなって思います。結局、乗り越えることはできなくて、前日も学校で泣いて、みんなに励ましてもらって。でもやるしかないから、本番にはなんとか行きました。

畠中： 私は、ずっと心の中で焦っていました。共テを受けたとしても明らかに点数が足りないだろうっていう状況で。絶対に受けないといけないんだけど、直前になって「もっと効率的な方法があったんじゃないか」とか思い始めたら、そういう考えが止まらなくなって。メンタル面がやばかったです。友だちにも励ましてもらって。共テ当日も、なんか緊張でおかしくなっていました。親とか周りの人に「大丈夫だよ」ってずっと言ってもらっていました。

藤原： 私も友だちの存在が大きかったです。一人だったら無理だったなと思いました。一人だったら、たぶんしんどかったです。

後輩へのメッセージをお願いします。

畠中： 私は「頑張ったら絶対に最後に上がる」って思っていたので、初めはちょっと楽だったんですけど、直前になってすごい精神的にしんどかった。「これまで頑張っても上がらなかったのに、直前から本番までで上がるわけないやん。」ってなってしまっ。だから、どれかの考え方一本に絞ってしまっ。そっちに全振りしたら、しんどくなるときがあると思う。汎用性高く、柔軟にやっていたほうがいいかなって思います。

奥谷： そうそう。けっこう「最後は絶対に上がるから」って言われることが多いから、そういうものなんだったって思っ。しまっ。いたよね。でも、途中で「あれ？」って。「上がってない。"最後"っていつ？」みたいになった(笑)

畠中： そう。本当に。しんどくなったら、周りの人に助けてもらいながら。がんばってきた結果を本番で出せるように、自分を守る術を身につけることも大事かなと。

藤原： 自分を守るってことにも関係するけど、睡眠はちゃんととるようにしたほうがいいと思います。生活リズムを崩してまで勉強をしまっ。と、体調も悪いのに成績が上がらなくて、しんどくなるし。で、集中もできなくなる悪循環。だから一日一日を集中して効率よく勉強できるように生活リズムは大事だと思います。私は自習から帰る時間とかも固定してました。

畠中： それができるのはすごいなって思っ。た。

藤原： その分、勉強時間は人より短くなっ。たかもしれないけど。

奥谷： でも、アカデミーでいるときの集中力すごかったよね。私は最初は推薦を考えていたの。で、成績はしっかりとっ。おこう。思っ。ていました。高1とかは部活も忙しかったの。で、定期テストのことだけ勉強してたんです。確かにテスト勉強だけでも共テまでスムーズに力をつける子もいるとは思っ。うんですけど、自分はそういうタイプじゃなっ。た。後輩のみんなには、できるなら継続的に勉強を続っ。てほしいなっ。て思っ。ます。受験はしんどいけど、友だちとか学校の先生とかアカデミーの先生たちもいるから、がんばっ。て欲しいです。

インタビューを終えて

3人とも、塾の使い方が本当に上手だったと思います。集団授業だけでなく、高2からのサテラインや速読聴英語、自習室の活用、個別面談、質問対応まで、ACの機能を余すことなく活用しながら努力を重ねてくれました。

そして、高1の頃から真面目にコツコツと学習を積み上げられる生徒たちでした。その継続力が、今回の国公立大学合格へと確かな形で結びついたのでと思います。

また、高3になってからは、毎日明るく元気に自習室へ通い、前向きな雰囲気を受験勉強に取り組んでいました。悲壮感ではなく、「みんなで頑張る」という空気を自然につくり出し、互いに支え合い励まし合いながら努力する“チーム環境女子”は、周囲にも良い影響を与える素晴らしい存在でした。



藤原さんには英語力、奥谷さんには粘り強さ、畠中さんには芯の強さと、それぞれに確かな個性と強みがあります。今後もその力を存分に発揮し、医療人として大きく活躍してくれることを願っています。合格おめでとう。これからの歩みも応援しています。